

エジプト駐在武官

日誌(6)

ピラミッド駅伝

榊枝 宗男 陸自75

駅伝と言えば新春の箱根駅伝が有名であるが、エジプトにおいては日本人学校と日本人会主催のピラミッド駅伝が話題となる。

カイロ駐在の3年間、毎年秋に日本人学校(小・中学生)の駅伝大会が、観光で有名なギザの3大ピラミッドの前で行われる。ピラミッドは日本のテレビ番組で砂漠のど真ん中にあると思われがちだが、実は市街地の直ぐ隣りにあり、カイロの中心から車で20分程と意外な近さと、町のアパートやホテルなどの住宅街や日本人学校と並んでピラミッドがそびえ立っていることに、誰しもが驚く。いつもエジプトと言えば、砂の中のピラミッドのイメージを与えるため、あえて町並みや住宅が映らない砂漠方向からのみのカメラアングルにしている。そんな観光地でも1回行われる駅伝競走は、現地でもとても人気がある。

当時この日本人学校の生徒数は、40名と年々減少傾向にあった。小1から中3まで7名の縦割りチームを作り、足りない場合は父兄が参加して健脚を

競う。勿論小学校低学年は1km、中学生は3kmと、学年により区間・距離が違う。早朝とは言えエジプトでは気温30度と暑い。現地の人たちから見ると、初めは炎天下で何故走っているのか疑問を持つらしいが、邦人社会の熱烈応援の姿を見て、駅伝ファンになったラクタ引きのおじさんも多く、ピラミッドの風物詩となっている。

「走る」「リレーする」という簡単なルールを持つ日本独自の競技が、外国人にも「EKIDEN」として受け入れられている。日本が生んだ駅伝がピラミッドの前で紹介され、これも日本流の国際交流かも知れない。



カイロ日本人会駅伝完走者へ表彰